



はいのたね



～ 健診のご案内 病気を「治す」から「防ぐ」時代へ ～

健診のQ & A

Q 健康診断は何のため？

A 健康診断の目的は、自覚症状の無い初期の段階で異常を発見することです。

一次予防

健診結果から生活習慣の改善をし、病気を予防する。
生活習慣の問題点を自覚し、改善に取り組むきっかけとする。

二次予防

病気を早期に発見し、早期治療につなげる。早期発見・早期治療により、からだ・時間・費用などの負担の軽減をはかる。

Q 定期健診では何がわかる？

A 血液検査：貧血、肝臓の異常、腎臓の異常、生活習慣病などがわかります。

尿検査：糖尿病、腎臓の病気、膀胱癌などがわかります。

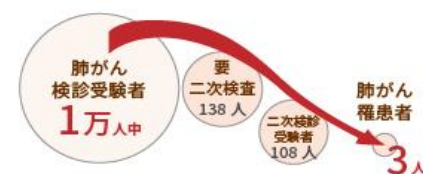
身体測定：身長、体重からBMI値を計測して、やせているか太っているかがわかります。

胸部X線：肺炎や肺癌、胸水貯留など、呼吸器疾患の有無などがわかります。

心電図：心臓の動きをみる検査です。

Q 肺がん検診の現状は？ がんが見つかりそうでこわい？

A 肺がん二次検診を受ける必要のある人、
がんが見つかる人の割合



日本対がん協会による2015年の調査によると、肺がん検診を1万人が検診を受けると、2%の人が一次検診で「異常あり」と判定され、精密検査（二次検診）を受けるよう判定されます。しかし、実際に精密検査を受ける人はそのうちの78.4%の方です。その中でがんを発見された人の割合は0.05%でした。

2016年にがんで亡くなった人は37万2986人（死亡総数の28.5%）であり、死因のトップにです。死因のトップは男性が肺がん、女性が大腸がんです。男女ともに膵臓がんが増加、女性では乳がんが年々増加している一方で、男性の肺がん・胃がんが減少傾向にあります。（日本対がん協会より）

ご自身のために、大切な人のために、健康診断を受けましょう！

井上病院の健診の様子



レントゲン撮影の様子

声をかけながら行います。
安心できるようにサポートします！



血液検査の様子

患者様に安心してもらえるよう、声かけをしながら行います！



特定健診は予約制となっております。
胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診も当院で出来ます。
お気軽に受付にお問い合わせください。

井上病院 084-943-5000

新任職員紹介（医療事務）



藤田

病院での事務職勤務は久しぶりなので、とても緊張しています。
皆さんに教えてもらったことをしっかり覚えて、長く楽しく続けていけるように頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

受動喫煙防止の話

副院長：岡林 孝弘



2020年の東京オリンピック・パラリンピックにむけて受動喫煙防止が話題となっています。受動喫煙防止を目指した法律の制定に向けての議論がありますが、受動喫煙とは何でしょうか？オリンピックと喫煙とはどういう関係があるのでしょうか？

そもそも、スポーツの祭典であるオリンピック大会は健康の祭典でもあるという考えがあり、IOC（国際オリンピック委員会）はWHO（世界保健機関）とともに「たばこのないオリンピック大会」を提唱しています。そして、2002年のソルトレークシティ大会以降は開催地での受動喫煙禁止や会場での全面禁煙などが法的にも整備されてきています。次の東京オリンピックまでに国内の法律を整備して、国際社会との調和を図ろうとしています。その内容に関してはまだまだ不十分なものと指摘もあります。

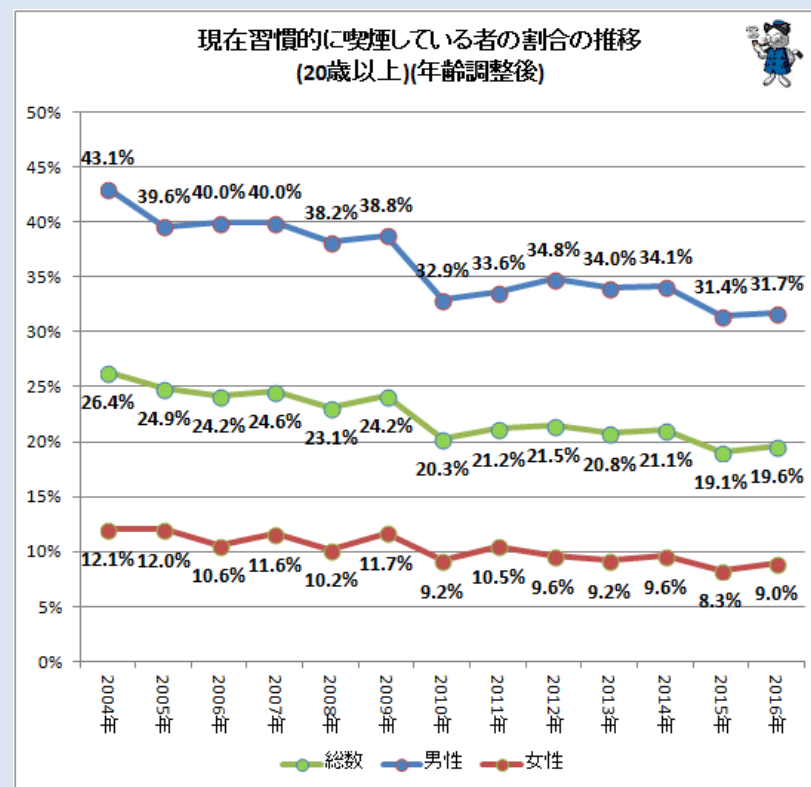
わが国では、明治以降たばこ産業は公営でした。1985年に施行された「たばこ事業法」で民営化されましたが、筆頭株主は財務省です。たばこ事業は財源であり、たばこは嗜好品として扱われています。国策として喫煙による健康被害をなくする取り組みは国際的に見劣りします。

それでも、年々成人の喫煙者の割合は減少してきており、成人男性の喫煙率は約30%強、女性では10%以下、総数で20%以下となってきました。

人々の健康志向とたばこの害が徐々に周知されてきていることの表れでしょう。

たばこを吸っている人の健康被害については、呼吸器系のがんだけではなく、いろいろな発がん率があがることが知られています。がん以外にも気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、動脈硬化、心筋梗塞、糖尿病、骨粗鬆症、肌の老化などに関連しているといわれています。

また、妊娠中の喫煙は胎児への悪影響があり、将来のことを考えたら若い女性の喫煙は中高年の方よりも深刻な問題です。



資料 厚生労働省
「平成28年国民健康・栄養調査結果の概要」より

受動喫煙とは、

喫煙により生じるたばこの先から出る煙（これを副流煙といいます）や、喫煙者が吐き出した煙（これを呼出煙といいます）を発生源とする、有害物質を含む環境たばこ煙に曝露され、それを吸入することを示します。間接喫煙、二次喫煙ともいいます。

夫の喫煙により、たばこを吸わない妻の受動喫煙が原因で肺がんを発症するなどということが起こりうるのです。



厚生労働省の研究班によると、受動喫煙が原因で年間1万5千人が亡くなっていると推計されています。2003年に健康増進法が制定され、受動喫煙防止が努力義務とされていますが、飲食店や職場でのさらには家庭内での受動喫煙防止に向けて実効性ある対策が求められています。

たばこの害を減らす健康増進のために、受動喫煙対策は重要であります。本丸は喫煙自体をなくする取り組みと思われます。

最近、電子たばこや加熱式たばこといわれる新型たばこが急速に普及してきています。電子たばこは香りのついた液体を熱して煙ではなく蒸気を吸うもので、加熱式たばこはたばこ葉を燃やさないで加熱してエアロゾルを吸引するものです。反たばこ意識が高まっている状況で、煙を出さないことや新しいネーミングなどのイメージ戦略で新たな顧客を獲得しようと販売会社もしのぎを削っています。販売側は通常の紙巻たばこより安全で害がないと宣伝しますが、有害物質は含まれており、まだまだ安全と言えるだけの検証はされていません。このため、受動喫煙防止を目指す健康増進法改正案では、これら新型たばこも公共の場所では同様に規制対象となることが予想されています。

いずれにしても、喫煙行動の本質はニコチン依存であり、新型たばこもその点ではニコチンに脳が支配されている状態の継続であることに変わりはありません。



← シンボルマーク

寄り添う2羽の白鳥は、喫煙者とまわりの禁煙協力者がともに禁煙に取り組む姿。

「禁煙しない、吸わん（スワン）」
毎月22日は禁煙の日、スワンスワンで禁煙を！



井上病院 2018年4月 発行